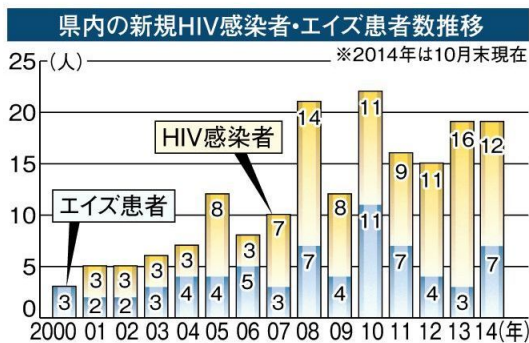


県内H I V 14年検査

感染判明最多7人

る。県は早期発見につながったと評価する一方、新たに確認されたエイズ患者も4年ぶりに増えており、12月1日の世界エイズデーに合わせて検査時間を延長するなど早めの検査を呼び掛ける。(阿部光希)

2014年に県内のエイズ治療拠点病院と保健所の検査を自発的に受け、H I V(エイズウイルス)感染が判明した人が10月末で過去最多の7人となったことが県の調査で分かった。検査料の軽減や啓発で検査件数が増えたことが要因とみられ



14年に自発的検査で感染が判明したのは保健所5人、拠点病院2人。前年は保健所2人、拠点病院はゼロで、県健康推進課

は「例年1〜3人ずつで、7人は飛び抜けた数字」と言う。これ以外にも他の病気で医療機関を受診し、感染が発覚した人なども5人いて、今年の新規感染者は12人となっている。

県によると、県内の検査件数は14年が1121件で前年同期比2割増。昨年4月から検査料を一律千円にした拠点病院が4割増と大きく伸びた。

県は検査機関や日時を一覧にしたカードをトイレなど手に取りやすい場所に置く対策を実施。感染リスクが高いとされるMSM(男性同士で性行為をする人)が集まりやすい場所でも力

を呼び掛けていきたい」として、県は1日以降、保健所の検査時間を随時延長するほか、今後検査を受ける人にアンケートし、効果的な啓発方法や検査を受けやすい環境づくりを探索する方針。健康推進課は「早い段階で治療を始めれば、仕事も辞めずにそれまで通りの社会生活を送れる。早めの検査が大切なこと

ードを置くなど啓発している。県エイズ医療等推進協議会会長の和田秀穂・川崎医科大学教授は「感染リスクの高さを自覚した人が検査を受けに来るケースが増えているのでは」と分析す

一方、14年の新規患者は7人で10年の11人に次いで多い水準。「比較的初期の患者が多い」(和田教授)という。

料金軽減、啓発で増加